わたしの一日

板橋区立新河岸小学校校長

金子　陽子さん



「ネバーギブアップです」。そう話すのは新河岸小の校長・金子陽子さん。

金子校長は一昨年に同小へ転任。昨年は1年生が8人となったが、学校が金子校長を中心に様ざまな取組を行なってきたことにより、今年の新1年生は2桁に増えた。

金子校長の教員のスタートは蓮根小。足立区・北区で音楽専科、金管バンド、英語活動に関わる。東京都教職員研修センターで指導主事、新宿区立東戸山小で副校長、荒川区立第六瑞光小で校長、前野小を経て同校へ着任した。

金子校長はあちらこちらに出向き、いつも同校のチラシを携えながら、さながら営業マンのようにアグレッシブにPR活動をしている。

新河岸には工業地域があるが、その新河岸工業会とは社会科見学・新河岸ミュージカル等で交流がある。

同校の状況を聞いた工業会では「新河岸小のために何かできないか」と『新河岸小応援団』を結成、第一弾として、転勤族が多く、白ければOKとされてきたバラバラの体操着の代わりに、そろいの『新河岸小Tシャツ』を作り、児童全員に贈呈した。これらは同工業会でスポンサーを募って作られ、運動会や各種行事でも活用されている。このTシャツは昨年6年生だった卒業生がデザインし、次年度のTシャツの作成が予定されている。

また、田んぼのある同校では毎年、近隣の人たち協力を得て『新河岸米』を作っているが、近隣の保育園等と連携して田植え・収穫体験をしている。今年は社会科見学に行った三園の『太陽油化』の協力を得て、汚泥を分解する同社の微生物研究によって生まれた土壌改善・収穫高を増やすという商品『東京8』を使って土づくりを行なっている。

そして、昨年からは『子ども食堂』の場所提供を始めたが、これにより遅刻する児童がいなくなり、朝から落ち着て学習できる状況になった。

これを受けて今度は学力向上を目指そうと『百マス計算』で有名な陰山英男さんの『集中反復学習』を今年度から取り入れた。

1年間で覚える漢字200字を1学期で覚え、6年生は全員英検3級に挑戦することを目標に、教員らも研修などを終え、協力的に取り組んでいる。

「地域の皆さんがいろいろと応援してくださるおかげです。これらを単なるイベントにしないで受け継がれていく仕組みを作りたい」と金子校長。

この他にも、都教委指定の『日本語指導推進校』となった日本語学級の取組や、教員も参加することになったCS委員会、オヤジの会を母体とした新河岸小サポーターの活動、鼓笛隊、今年復活する地域との餅つき大会、常盤山親方の講演など、あらゆる活動に取り組んでいる。

高島平新聞　第６７２号　令和８年６月１５日刊行